

氏 名	中村 健史
学 位 の 種 類	博 士 (安全保障学)
学 位 記 番 号	第 4 7 2 号
認 定 課 程 名	防衛大学校総合安全保障研究科後期課程
学位授与年月日	平成26年8月22日
論 文 題 目	国家建設における加盟コンディショナリティ・ボスニア・ヘルツェゴビナを事例に-
審査担当専門委員	(主査) 一 橋 大 学 教 授 大 芝 亮 筑 波 大 学 教 授 赤 根 谷 達 雄 埼 玉 大 学 教 授 山 本 良

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、NATO および EU への加盟のためには、加盟希望国が国内制度改革を実施することを条件とする政策（加盟コンディショナリティ）が、加盟希望国における国家建設・国内政治に、いかなる影響を及ぼすかについて、理論的に考察するものである。具体的には、ボスニア・ヘルツェゴビナを事例とし、軍改革、憲法改革、警察改革の3点をとりあげ、国際社会による関与、民族間レベル、そして民族内として政党間レベルのそれぞれでの対応について、多様な資料や選挙分析を通じて分析を行っている。この詳細なる分析は高く評価することができる。

ただし、改良すべき点もある。第1に、NATO および EU の加盟コンディショナリティの研究であるならば、このようなコンディショナリティが適用されてきた他の事例と比べ、ボスニア・ヘルツェゴビナがどのような特色をもつ事例なのかを明らかにし、位置付けを明確にすべきであろう。

第2に、NATO への加盟について軍改革をとりあげ、EU 加盟について憲法改革と警察改革を取り上げているが、なぜ、NATO 加盟と EU 加盟の双方のコンディショナリティを取り上げる必要があるのか、十分な説明がなされていない。NATO 加盟と EU 加盟は相互にどのように影響しあうのか。両者の関連性についてもより説明がなされるべきであろう。

第3に、選挙の分析については、各政党に対する支持率の分析など、より徹底した分析を行うことが望ましい。

たしかに以上のような問題は残されてはいるが、これらは今後の課題として取り組むべきものであり、本論文は、EU 加盟コンディショナリティについての研究を大いに発展させるものであると判断し、博士（安全保障学）の学位を授与するに

値する論文であると認定する。